

〈午前10時28分 休憩〉

〈午前10時35分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。

日程第5．一般質問

○議長（松尾徹郎君）

日程第5、一般質問を行います。

発言通告者は15人ですが、議事の都合により、本日5人、6日5人、7日5人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き、1人30分です。所定の時間内に終わるように、質問・答弁とも簡潔に要領よくお願いいたします。

また、質問は通告書の範囲にとどめるよう、通告外とならないよう、ご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

宮島 宏議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。〔14番 宮島 宏君登壇〕

○14番（宮島 宏君）

おはようございます。清新クラブの宮島 宏です。

今回の私の一般質問でも、糸魚川の宝を守り、生かす、人・こと・ものに沿った3点の質問をいたします。

では、これより質問に入ります。

最初は、ヒスイの保全と利活用についてです。

ヒスイは当市を代表する宝であることは論をまたないところであります。この宝の保全と利活用について、以下伺います。

- (1) 新潟県糸魚川地域振興局の「石のまち 糸魚川」のヒスイの保全に関する特記仕様書について、どのように考えていますか。
- (2) ヒスイの3ない運動やヒスイのワイズユースの提案について、どのように考えていますか。
- (3) ヒスイ採集を安全に楽しく体験できる全天候型の施設の提案について、どのように考えていますか。
- (4) ヒスイを新潟県の石にする会が、令和4年2月の新潟県議会に請願することになりました。新潟県の石にヒスイがなることについて見解と抱負、なった場合の対応について伺います。
- (5) フォッサマグナミュージアムで行っているヒスイレスキューの内容と意義について伺いま

す。

(6) 市内2か所の国指定硬玉産地の解説板の整備状況について伺います。

(7) 小滝地区から林道入山線を一方通行にする要望が出されています。この要望への対応や見解を伺います。

(8) ユネスコの国際基礎科学年に関連した2022鉱物学年に合わせた事業を予定していますか。

続いて、2番目は、防災減災の推進についてです。

市民の命と暮らしを守るために、防災減災の推進は極めて重要です。これに関して、以下伺います。

(1) 糸魚川市地震防災マップ保存版の意義と内容について伺います。

(2) 新潟焼山火山防災マップの意義と内容について伺います。

(3) 当市における防災減災教育について見解と抱負について伺います。

(4) 国土地理院の自然災害伝承碑の意義とその活用、整備について伺います。

3番目の質問は、「ブラタモリ」についてです。

「ブラタモリ」糸魚川編の実現は、多くの人の長年の夢であり、関係各位のご努力に敬意を表します。地名や施設名が出せないこと、フォッサマグナミュージアムの整備休館など、種々の制約や事情があったことも理解しています。収録日はあいにくの天候でしたが、案内者の巧みな話術と表情により、非常に充実した内容だったと思います。

(1) 「ブラタモリ」糸魚川編を、今後の地域振興と人材育成に活用することについての抱負を伺います。

(2) 市民や観光客向けに「ブラタモリ」の再現ツアーやバーチャルツアーが有効だと思いますが、いかがですか。

(3) 「ブラタモリ」を見た複数の市の職員から、月不見の池の巨岩は焼山の大噴火で飛んできたものと思っていたという話を聞きました。子供時代に教えられたのだそうです。このことをどのように受け止めますか。ジオパーク学習やふるさと教育に関連して伺います。

以上で、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

宮島議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、工事の際に見つかる可能性があることから、ヒスイの保護に効果があると考えております。

2点目につきましては、ユネスコ世界ジオパークの理念を踏まえ、ヒスイの保護と持続可能な活用に向けて、採集のルール化などについて対応しております。

3点目につきましては、現時点では考えておりません。

4点目につきましては、ヒスイがクローズアップされていると期待しており、石のまち 糸魚川を内外に発信してまいります。

5 点目につきましては、河川などでヒスイが見つかった場合、河川管理者の許可を得て引き上げ、保護に努めており、ヒスイを守る非常に重要な活動であると考えております。

6 点目につきましては、小滝川硬玉産地では、ジオサイトやヒスイ原石の位置を示す解説板を設置しております。

青海川の硬玉産地には、解説板を設置しておりませんが、策定を今進めておりまして、文化財保存活用地域計画の中で整備を検討してまいります。

7 点目につきましては、平成30年度に地元と協議しており、引き続き地元や関係者の意向を伺う中で検討してまいりたいと考えております。

8 点目につきましては、県の石決定ともタイアップした事業を計画してまいりたいと考えております。

2 番目の1 点目につきましては、地震やそれに伴う建物被害等の可能性を地図上に示すことで、住民への注意喚起と防災意識の高揚を図るため、策定しているものであります。

2 点目につきましては、噴火の性質や規模、災害予想区域を示し、噴火時の心構えや平時からの備えについて、まとめたものであります。

3 点目につきましては、子ども一貫教育基本計画に位置づけ、県のプログラムを活用した防災教育に取り組んでおります。

4 点目につきましては、過去の自然災害の教訓を後世に伝えるとともに、地域住民の防災意識の向上に寄与するものと考えております。

3 番目の1 点目につきましては、フォッサマグナやヒスイなど、当市の特徴的な地域資源が全国に発信され、ジオパークの魅力を感じていただけると捉えております。今後とも、ジオパーク活動を通じて、地域振興や人材育成に取り組んでまいります。

2 点目につきましては、再現ツアーなどは効果的でありますので、実施に向けて検討してまいります。

3 点目につきましては、自分たちが暮らす大地や歴史を正しく理解することが、ふるさとを愛し、誇りに思う気持ちや防災意識の向上につながるものと考えておりますので、今後とも様々な機会を通じてジオパーク学習の推進に努めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ヒスイの保全と利活用に関する2 回目の質問です。

新潟県糸魚川地域振興局の、先ほど言った特記仕様書ですけれども、もちろん内容をご存じだと思っておりますけれども申し上げますと、1 つ目に、工事中にヒスイまたはヒスイに類似した岩石を発見したときには、速やかに監督員と協議しなければならない。また、協議前に破砕や工事現場以外への持ち出し等を行ってはならないとあります。この特記仕様書に基づいた協議の実績について、糸魚川市では把握されてますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今、ご質問のありました特記仕様書に基づく実績については、市も含めまして、まだ聞いておりません。

ただ、これによりましてヒスイの保護の効果が期待できますので、大きな意義があるというふうを考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

この特記仕様書は、私、目にしたときに非常に大きな前進だと思いました。糸魚川は、ヒスイが再発見されて80年ぐらいになりますけれども、こういった動きが今までなされていなかった。市長も大変評価されたというふうに記憶しております。

この特記仕様書が、より有効に活用できるように市と県が連携して、取り組んでいただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおり、この特記仕様書が有効に運用されますように今後とも努めてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ヒスイの3ない運動、あるいはヒスイのワイズユースなんですけれども、皆さんは、公共用物としての河川や海岸における自由使用という概念をご存じだと思います。これに従いますと、ヒスイの採集というものが、海岸とか河川で、ある程度自由にできることとなります。

ただ、無制限にできるわけではもちろんありませんので、それを防ぐのが、3ない運動であり、ワイズユースだと思うんですね。ぜひユネスコのジオパークの理念に沿って、どういうヒスイの採集の仕方、楽しみ方が持続可能なのか、それをきちんと海岸等に表示していただきたい。あるいは市民に広くお伝えいただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

おっしゃるとおりユネスコ世界ジオパークの理念に基づきまして、地質資源の保護ですとか保全、また、持続可能な地域開発に向けて、取り組んでいく必要があるというふうに考えております。

現在、例えばフォッサマグナミュージアムの石の鑑定では、個数を制限したりということによって一定のルールを設けておるところでありますし、また今後とも、限りのある資源でありますので、これをワイズユースという言葉が使われておりますけれども、賢く地域振興に活用していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

私の本にも紹介してはありますが、世界遺産になっているイギリスのドーセットという海岸があります。この海岸には、数多くのジュラ紀のアンモナイトが見つかります。調べてみると、海岸に転がっているアンモナイト化石は、採集ができるんです。世界遺産になってる地域であるにもかかわらず、許しています。

これはなぜかという、そのまま放置すれば、荒波で削れて、化石がなくなってしまうからです。ですから、化石がなくなる前に保護することが、世界遺産の理念に従うという考えです。ヒスイも全く取らずにいれば、どんどん小さくなって、最終的には砂粒になっていくわけですので、一定のルールに基づいた採集の仕方は、ヒスイの保護につながっていると思います。ぜひこのこともご理解の上、進めていただきたいなと思います。

続いて、ヒスイの体験採集施設なんですけれども、皆さんは、ヒスイ採集をやった方もいらっしゃると思います。長年やってる方でも、そう簡単には見つかりません。まして、観光客が30分ぐらい海岸にいても、ヒスイが見つからないことが普通です。

また、自然相手ですから、荒波や雪、暴風、そういったときには、当然、ヒスイ採集はできないわけです。そうすると糸魚川の魅力のヒスイ採集というのが、物すごく天候に左右されている。例えば団体旅行を計画した人が、糸魚川で海岸でヒスイ採集を楽しんでもらいたいと計画したときに、天気悪かったらできないとか。それから、荒波だったらできない。そういうふうに制約があって、観光のコンテンツにはならないんですね。

皆さん、佐渡に行ったことあると思うんですが、佐渡にはゴールデン佐渡という施設があって、屋根つきの施設の中で砂金を採集することができます。大変人気があって、入り口には、必ず採れます、採らせませすというキャッチコピーが書いてます。しかも採集してる人の手元には、テレビカメラがあって、ほかの人がどれぐらい砂金を取ったのかということが、それぞれの人が把握できるようになってるんですね。それであおってるわけです。

人間というのは、古来からいろんな物を採集して、文明を築いてきました。採集することは、物すごく原始的に楽しいんですね。もしヒスイが、安全に短時間で採集できるような、釣堀的なものが糸魚川にあれば、物すごく有力な観光の施設になると思います。現に、フォッサマグナミュージアムにある化石の体験採集ができる化石の谷、夏、皆さんご覧になったことあるでしょうか。物すごく炎天下なのに、子供たちとか大人たちが、物すごく一生懸命化石を探してます。自分の力で探すことって、すごく楽しいんですね。それがヒスイに置き換わったものがもしあれば、糸魚川に滞

在する時間が間違いなく延びます。それから、糸魚川に行ったら、必ずそこに立ち寄る。そういった決まりもできてくると思うんですね。ぜひ今後、ヒスイの全天候型の体験採集施設を検討していただければ、ありがたいなと思います。これは要望です。

でかいヒスイを採集させる必要はありません。ヒスイの加工に伴って、小さなかけらがたくさん出ることは、ご存じだと思います。そのかけらを砂粒に埋めておけばいいと思います。ぜひご検討ください。

続いて、県の石なんですけれども、2月の県議会に請願出されて採択されれば、うまくいけばゴールデンウィークの後ぐらいに正式に決まると思います。国の石がヒスイになったとき、それから、県の石がヒスイになったとき、それに合わせて、糸魚川市として応援をしていただきたいと思います。ぜひご検討ください。

ヒスイレスキューなんですけれども、これは大変、市長もおっしゃるように重要な役割を果たしてきました。例えばフォッサマグナミュージアムに翠の雫という石があります。これは小滝川で見つけました。フォッサマグナミュージアムに来ていた人から連絡があって、許可の下に保護されたんです。それから、4.6トンものヒスイが、第2展示室に展示されてます。それ以外にも、例えば糸魚川石が入っているヒスイなどなど、多数の貴重な資料が、ヒスイレスキューによって救われてきました。

これはフォッサマグナミュージアムと、フォッサマグナミュージアムを利用していた来館者の関係なんですけど、これをさらに拡大して、例えば一般市民に広報等で、もし川で、あるいは海で大きなヒスイを見つけたら、市に連絡してほしいというような要請、それをする。一般市民が、もし川でヒスイらしきものを見たら、市に連絡してくれと。こういう体制ができれば、フォッサマグナミュージアムのヒスイレスキューがさらに拡大して、糸魚川の宝が十分に保護されるようになると思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

議員おっしゃるとおり、市の大切な財産であるヒスイが持ち出されることなく保護できるように、レスキューを実施していることを積極的に今後周知し、持ち去られることを減らしていくっていいですかが必要であるというふうに考えております。あわせて、市の大切な財産であるということ積極的に周知していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

青海川の硬玉産地なんですけれども、上流部に非常に大きなヒスイがあります。よく見てみると紫色の部分や非常に鮮やかな緑の部分があり、川の流れが少ないときには、その石の上に乗って観察することも可能です。

それから、すぐ近くのヒスイには、この地方で発見された糸魚川石という新鉱物も見ることがで

きます。「ブラタモリ」でも、青海川のヒスイ峡が紹介されたように、実は青海川のヒスイ峡というのは、ヒスイを大変観察しやすい環境にあるんです。にもかかわらず、ジオパークが始まって10年以上たっていますが、上流部にある巨大なヒスイの前にすら、解説板がないんです。これは、異常事態だと、私は思います。せめて、巨大なヒスイの前だけでも、来年度中に「ブラタモリ」で見て、行ったけど何もないよということになんないようしてほしいと思いますけれども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

議員ご存じのとおり、小滝川に比べて、ヒスイの原石を間近に観察できるのは、青海川だというふうに認識しております。当然、解説板整備は、必要と考えております。市長答弁したとおり、ただいま文化財の保存活用地域計画を策定しておりますので、その中で検討は進めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

続いて、林道入山線の話です。

入山線を一方通行にすることで、以下のような多くのメリットがあります。

まず、車両同士の擦れ違いがなくなることで、それから、中型バスでもヒスイ峡に入りやすくなること。それから、道中で明星山の岩壁が、どんどん、どんどん近づいてきて、非常に迫力のある自然を楽しむことができる。

さらに、高浪の池の利用者が、増えることです。林道は、利用形態から、専ら林業活動に利用される林業振興型林道というもの、生活やレクリエーションに利用される山村地域振興型林道があるというふうに私の調べで分かりました。

入山線をそれに照らすと、両方の性格を有していると思います。

小滝川ヒスイ峡と高浪の池は、小滝地区にとって大きな地域資源であり、第一級のジオエリアでもあります。地域住民や関係者、関係課と十分協議の上、よりよい着地点を模索することが必要と考えますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

木島農林水産課長。〔農林水産課長 木島美和子君登壇〕

○農林水産課長（木島美和子君）

お答えいたします。

林道入山線の奥に、治山地滑り対策工事を実施しております。これは国が実施している工事なんですけれども、毎年、地元の方も国のほうに、この事業の推進を要望されております。安全対策、それから事業の推進、そういったところどちらを取るのかというのを、地元の方も改めてよく話し合いをしていきたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

続いて、防災・減災の話に移ります。

さきに放送された「ブラタモリ」では、海岸沿いで標高が高くなってる。その内側で標高が低くなっているということが紹介されていました。これは、砂丘による地形の高まりです。砂丘の内側は、後背湿地というものです。

平成22年発行の地震防災マップを見ると、市街地は、海岸沿いの砂丘と山側の低湿地、あるいは段丘、姫川沿いの旧氾濫原、そういったものがあるんですが、揺れやすさや液状化発生程度に全く反映されてません。非常に解像度が荒くて、砂丘と後背湿地で揺れやすさがほとんど分からないんですね。もっと土地条件を反映した揺れやすさマップを作り、しかも高解像度でないと、既に住んでる人、あるいはこれから住もうとしてる人にとって有用な情報にならないと思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

地震防災マップにつきましては、揺れやすさや液状化の危険度を大まかに捉えていただいて、地震への備えにつなげていただくものというふうに考えております。

ただいまご指摘のあったとおり、地形や地質、あるいは想定する震源の場所等によりましては、やはり揺れやすさや液状化の危険度が異なりますので、あえて、あまり高解像度にしていないという面もございます。

いずれにしましても、そのようなマップに記載されていない情報や可能性などもお伝えし、防災対策に取り組んでいただけるように、これからも取り組んでまいりたいというふうに思っております。

なお、今後、ハザードマップ等を作成の際には、今ほどご指摘のあったような点についても、ちょっと検討はしていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

平成22年発行の糸魚川市地震防災マップは、地震断層を高田平野西縁断層帯と糸魚川静岡構造線活断層を想定しています。

しかし、平成31年発行の津波ハザードマップでの想定断層は、鳥ヶ首灯台沖から富山湾へつながる。つまり、糸魚川の海岸線にほぼ並行した断層である糸魚川沖断層を想定しています。つまり、



平成22年の防災マップと平成31年の津波ハザードマップでは、想定する断層に不一致があるということです。

地震防災マップを次改訂する際には、ぜひ糸魚川沖断層を想定した揺れやすさマップ、あるいは液状化推定マップにしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

確かに津波防災マップにおきましては、震源想定といいますか活断層の位置が、以前に作ったものと大きく場所が違う想定でありましたから作り直しをしたわけですが、地震防災マップにつきましては、最終的に一番糸魚川の市民、市内に大きな影響があるのは、糸魚川市直下型地震、これを想定しておりまして、これが最大の状態での震度予想を入れております。

そういったことから、直ちに震源の位置を変えたものを作る必要というのは、あまり必要性はないかなというふうに考えております。今後いろいろな活断層、あるいは震源地が想定されるのについては、その都度検討してまいりたいというふうに思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

今の件については、了解いたしました。

「ブラタモリ」ご覧になったと思うんですけども、度々非常にカラフルなレリーフ図が出てました。地形が非常によく分かる。例えば糸魚川の海岸沿いに沿って砂丘があるよというのが一見して分かるような地図、あれはカシミール3Dというアプリケーションで作成したものです。これはフリーのものなので、誰でも作ることができます。ああいったものを防災・減災に活用すると、市民も直感的に自分のとこがどういう場所なのか。例えば砂丘だったら、後背湿地よりも少し揺れが穏やかだ。そういった理解がしやすいと思うんですね。ぜひ活用していただきたいと思います。これは要望です。

日本ジオパーク委員会の尾池前委員長は、1995年の阪神・淡路大震災以降、日本は大地動乱時代に入ったと指摘しています。その後、日本各地で大きな地震が発生し、2011年3月11日には、東北地方太平洋沖地震が発生しています。本日も大月で地震があり、その後、和歌山でも比較的大きな地震が発生しています。

東北地方太平洋沖地震は、平安時代の貞観地震の再来と言われています。約1150年ぐらい前の話です。この時代も大地動乱時代であり、日本各地で大きな地震や大規模な火山噴火がありました。焼山もこの時期に噴火していますし、富士山も大きな噴火をして、青木ヶ原の樹海をつくっています。

これに関係してですけども、新潟焼山火山防災マップというのを見ますと、早川谷に流れ下る融雪型の火山泥流を想定しています。焼山火山の大きな特徴である、おわんを伏せたような形、溶

岩ドームですけれども、その形成については言及されていません。

ジオパークになっている島原には、雲仙普賢岳というものがありますけれども、1990年から1996年にかけて約200年振りの活動を始めました。6年間で平成新山という溶岩ドームが形成されました。体積は約1億立米です。それが形成に伴って崩落型の火砕流が発生し、さらに火山泥流があって、甚大な被害を与えています。

大地動乱時代の現在、焼山火山で同様のことが起きることも否定できません。仮に、平成新山並みの溶岩ドームが山頂部に形成されると、早川だけの想定では不十分なんです。具体的に言うと、海川に沿って、流れ下る可能性もあり、南に行けば、関川に向かって流れ下ることもあり得るわけです。

津波ハザードマップの冒頭を見ますと、発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす津波を想定したと書いてあります。火山防災マップでも、これと同じようなセンスで、より規模の大きな噴火も、併せて想定することが大事なのかなと思いますけども、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

議員ご指摘のとおり、やはり防災マップを作成するに当たりましては、より大きな被害、最大の被害、最大の人々の生活に影響を与える。そういった状況を想定し、マップを作るのが一番いいというふうに思っております。かといって、焼山のように物すごく最大を想定したときに、それは何千年に一遍起きるくらいの規模である。それよりは中規模・小規模のものが数多く発生する、間隔が狭く発生する可能性がある。そういったところも併せまして、大規模な想定、あるいは中・小規模な想定、そういったことで意図して作っておるわけでございます。

今、最新に出ている部分については、より頻度が高いと思われる中規模程度の噴火を想定したマップというふうになっております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

火山には、いろんな噴火がありまして、私はもう破局的な噴火を想定しろとは言ってません。

ただ、この1000年間に焼山で起きたことを想定するのが大事だと思います。その中では、日本海まで火砕流が到達するようなことがありましたんで、決して、海川に火砕流が流れ下ることを想定することは、無理があるとは思いません。

続いて、ふるさと学習の一環として、当市に起きた自然災害を子供たちに伝え、防災・減災の意識を高めることは重要だと思います。これには異論がないと思います。

皆さんは、日本三大崩れというものをご存じでしょうか。国内で起きた大規模な山体崩壊のことなんですけど、実は、3つのうちの2つが、糸魚川から比較的近い位置で発生しています。

こういったことも、ふるさと学習で伝えるべきなんじゃないかと思います。例えば近隣で発生し

た著名な大規模な自然災害、妙高山というのは、かつて大規模な山体崩壊を起こしています。名立崩れ、それからさっきの三大崩れの一つである稗田山大崩壊、それから、立山の鳶山崩れ、高田地震、善行寺地震、新潟地震、中越地震、中越沖地震、近いところでは、長野県の北部地震、こういったものも糸魚川におけるふるさと学習で、決して糸魚川だけに限らず、近隣でも過去こういったことが起きてるんだよということを伝えることが大事なんじゃないかと思います。糸魚川の外では、海がそのまま外に崩れ落ちてるわけじゃないですね。続いているわけですよ。そういった意識で、ぜひ子供たちに伝えていただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

お答えいたします。

議員がおっしゃるとおり、防災教育に関わっては、自分の地域だけじゃなく、幅広く関連的・発展的に他の地域の事例についても学ぶべきというふうに考えております。当市のジオパーク学習においては、ゼロ歳から18歳まで繰り返し学ぶように計画されておりますけれども、比較的学年が低い子供たちについては、地域学習が中心になりますけれども、徐々に学びを広げ、深めていく中で、他の地域の事例についても学びながら、また、外から地域をまた見つめ直すというふうなことで、学びの成果を生かしていきたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

国土地理院の自然災害伝承碑についてです。

新潟県では、26基選定されていまして、うち12基が糸魚川市です。当市で自然災害が多いことの証左です。

これに関係して、私は、リストを見たときに驚きました。というのは、能生大洞の地滑り慰霊碑がないんですね。この選定は、多分専門の人が関わってやったと思うんですが、クロスチェックが不十分だったように思います。

能生大洞の地滑りがなぜ重要かという、昭和2年の4年に起きてます。その研究をしたのは、中村慶三郎という東大地質出身の人で、糸魚川生まれです。この中村先生の地滑り研究が、日本の地滑り研究の嚆矢というか、最初なんですよ。極めて重要な地滑り研究であり、地滑りなんですね。それが漏れてるということは、極めて遺憾なわけです。もし追加ができるか調べていただいて、早急に追加していただきたいと思いますが、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

小林消防長。〔消防長 小林正広君登壇〕

○消防長（小林正広君）

大洞の地滑り慰霊碑を含め、現在市内にある伝承碑の把握を進めております。地元の方からの情報などを頂きながら、写真や文献等の確認など、登録のための資料が整い次第、順次登録を進めてまいりたいというふうに考えております。

また、これらの伝承碑につきましては、防災学習での活用と並行して、その紹介、あるいは案内方法等につきましても検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

最後に、「ブラタモリ」について、扱います。

一般質問に取り上げるに当たり、いろんな方にお聞きしました。

まず、放送日が、糸魚川にとってはあまり時期のよくない11月下旬になってしまったのは、コロナの影響で、収録そのものが10月の中旬であった。そういったことが原因であったというふうに聞きました。それから、放映直後にフォッサマグナミュージアムが休館になってしまったのは、「ブラタモリ」の収録以前から決まっていたことで、文化庁の補助金で行うトイレやエアコンの施設改善工事が、1月末まで、1月31日までに完了しなければいけないという条件だったと。やむなく休館しなければいけなかった。特に年末年始に工事休止があるので、どうしても先送りができなかったんだというふうにお聞きしました。これに何か補足すること等あれば、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

宮島議員おっしゃるとおり、国の補助金もらいながらの工事ですので、期間を先延ばしすることができなかったということでもあります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足させていただきます。

本日に多くの方から、やはりフォッサマグナミュージアムの修繕には、何とか先延ばしできないのかという要望も頂いております。非常にこれは、以前からずっとフォッサマグナミュージアムが老朽化していて、以前からどうすればいいかということや、ずっと長年の懸案でまいりました。そういう中で、やっと取組ができたわけでございまして、なかなかそれを、また先延ばしするということができない状況でございまして、やむなく1月いっぱいまでの間に修繕をするという形にさせていただきました。本当に市民の方や、また市外の方からもいろいろご意見いただいている実情は、本当に重々承知しておるわけでございますが、そのような中で取り組ませていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

「ブラタモリ」が放映された翌日、フォッサマグナパークへ多くの人を訪れました。西側の駐車場が大変混雑して、急遽、東側の駐車場への誘導をしたというふうに聞きました。テレビの番組の影響力、大きさを示すものとして、今後の対応の教訓になると思います。いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

伊藤文化振興課長。〔教育委員会文化振興課長 伊藤章一郎君登壇〕

○教育委員会文化振興課長（伊藤章一郎君）

「ブラタモリ」の放映につきましては、内容的には、大まかな内容はお聞きしておったんですが、放送の詳細については、お聞きしておりませんでした。見ることもできませんでしたので、このような大きな反響になるということは、想定は少しはしておったんですが、これほどになるとは考えておりませんでしたので、翌、放送後の祝日・土日につきましては、駐車場への対応ということで、職員を派遣したり、断層露頭には、ガイドを派遣して、対応いたしましたということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

駐車場での、あるいは現地での案内の際に、例えばフォッサマグナミュージアムのパンフレットとか糸魚川市の観光ガイドとか、そういったパンフレットなども、併せて配布されましたでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今ほど文化振興課長の答弁にもありますが、その後の対応につきましては、ジオパーク協議会からガイドを派遣しまして、また、当課の職員も派遣しまして、パンフレットの配布等含めて、案内をさせていただいたところでありまして、大変、来訪者からは喜んでいただいた状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

今回、「ブラタモリ」は大変反響があって、先ほど市長からありましたように「ブラタモリ」を再現したようなツアー、できれば竹之内館長とか木島館長が案内する、そのまま再現するようなものがあると、大変いいと思います。ぜひ来年度の実施に期待します。

続きまして、あと3分になりましたので、月不見の池の巨岩が焼山から飛んできた、そういう話を紹介しました。これは市の職員が、今までそう考えてたと。能生で講演したときには、弁天岩が

焼山から飛んできたというふうに、昔、先生から教わったよと。あるいは早川谷には、昔大きな海があって、例えば東海という地名は、その証拠であり、波の音がざっと聞こえてくる坂道、それが音坂なんだというようなことを聞きました。

今言ったことは、全部科学的には正しくありません。なぜこういったことが言われているのか、それは正しい知識がうまく伝わっていないからだと思います。

それから、糸魚川タイムスの波動という項目にも、フォッサマグナと糸魚川－静岡構造線が同一視している人が多いということが書かれてました。この事実を聞いて、どうお考えでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

今ご紹介のありました月不見の池にかかわらず、ジオパーク活動に取り組む以前は、そういう地形や地質等、間違った情報で認識されていた方も多かったというふうに思われております。

ただ、今回の番組の放送を契機に、当市もジオパーク活動を推進しておりますので、正しい情報を理解していただき、それをまた、ふるさと学習ですとか、ひいては防災・減災のほうにも活用していく必要があるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

補足してお答えさせていただきます。

非常に我々、ジオパーク活動に取り組む以前と以降では、変わってもきてると思っておりますが、しかし、非常にこの地質の調査においては、古い知識というものが結構、近年まで流れていたのではないかなと。最近の調査とか研究の中においては、新たな近代的な機器で調査したり、また、新たな知識の中で、そういったところが明確になってきたりしてるところがございます。

そのようなことで、非常に長い歴史の中においては、非常に違った教えであったり、違った知識で我々が培ってきている部分があるのではないかなと思っております。まだまだこの大地というのは、分からないところがまだまだ多くあるのではないかなと思っております。そういう中において、やはりジオパーク活動の中で、さらに研究や調査をすることによって、明確になるものもあるのではないかなと思っておりますので、我々はそれについても一緒に取り組んでいきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

糸魚川のことを学ぶのに最適なものが、ジオパーク検定だと私は思います。私もジオパーク検定の受験勉強を通じて、多くのことを学び、誤解を修正することができました。今回のジオパーク検定では、長らく故郷を離れていた市議も受検し、見事合格されています。米田市長も、上級試験を

一発で合格されています。大嶋課長のように立場上、受験できない職員もいらっしゃいますが、現在、市の職員で上級に合格してる方って何人ぐらいいらっしゃるのでしょうか。もしお分かりになれば、教えてください。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

五十嵐総務部長。〔総務部長 五十嵐久英君登壇〕

○総務部長（五十嵐久英君）

今年の調査、令和3年度の調査では、上級を所持している職員については12人、全体職員の割合でいくと2.5%という状況でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

初級に合格してる人は、約4割と伺っています。さらに受験を奨励して、糸魚川のことを正しく、広く、深く知る職員を増やしていただきたいなと思います。

海洋高校の先生が8人、生徒とともにジオパーク検定を受けたと聞いております。素晴らしいことだと思います。糸魚川の学校の先生には、糸魚川以外の出身の方も多いですが、市立学校の先生方にジオパーク検定の受検を奨励されてますか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

富永こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 富永浩文君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（富永浩文君）

毎年、校長会等を通じまして、ジオパーク学習を進める中で、やはり指導者である教師のジオパークに対する理解を深める、その意味でジオパーク検定の受検を奨励するように、子供たちとともに奨励するように声がけ指導を行ってるところであります。

また、子供たちについても実数は把握してないんですけども、やっぱりジオパーク学習を進める中で、興味・関心を持って学ぶ意欲を高め、発展的にジオパーク検定を受けてみようというふうな子供が増えるように、できるだけ進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

最後になります。糸魚川を正しく、深く、広く理解してもらうためには、いろんな方法があります。私も現地案内とか普及講演とか普及書を作ったりしました。

今回、「ブラタモリ」の反響を見て、映像が非常に有効だと思いました。初級、中級、上級向けというようにレベルを分けて、比較的短い教育普及番組をつくり、ユーチューブなどでアップすることはできないでしょうか、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

ジオパーク検定に当たりましては、対面で講座ができるときには、合格必勝講座みたいなものをやっております。コロナ禍になりましてから、ユーチューブを活用した講座、合格達成セミナーを行っております。今言われるように非常に動画は有効だというふうに思っておりますので、レベルごとに応じた、そういう動画について作成を検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

ユーチューブ向けのコンテンツは、学校現場で使ったり、公民館とかデジタルサイネージ、あるいはケーブルテレビなどで活用できると思います。いかがでしょうか、伺います。ユーチューブ向けの番組というのが、ユーチューブだけでなく学校現場とか公民館とか、それから駅のサイネージ、そういったところにも応用できますよね。それについていかがですかと聞いています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

大嶋商工観光課長。〔商工観光課長 大嶋利幸君登壇〕

○商工観光課長（大嶋利幸君）

公民館活動ですとか、いろんな場面場面を通じて、動画の内容も変わってくると思いますが、いろんな場面でそういう動画が活用できるような方法につきましても、考えてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（松尾徹郎君）

宮島議員。

○14番（宮島 宏君）

これにて、一般質問を閉じさせていただきます。ありがとうございました。

○議長（松尾徹郎君）

以上で、宮島議員の質問が終わりました。

ここで、行政側入替えのため、暫時休憩いたします。

〈午前11時31分 休憩〉

〈午前11時36分 開議〉

○議長（松尾徹郎君）

休憩を解き会議を再開いたします。